（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

藤沢市立高倉中学校

研究テーマ：「すべての生徒が学ぶ喜びを実感でき、探究する授業づくり
～教科を超えてつくる学びの共同体～　」

１　実践の目的

高倉中学校では、生活面や学習面において指導・支援が必要な生徒について、生徒が学びから逃げてしまわないことをめざし、「生徒が学びに向かう」「授業を生徒の居場所に」という教師の願いのもと、10 年以上も「学びの共同体」の研究を続けてきた。教師が生徒の実態をしっかりと見取る力をつけ、生徒・保護者と信頼関係を築きながら、必要な指導・支援を授業の中にも取り入れ、生徒相互の関係も築きながら「主体的で対話的な深い学びに向けた授業づくり」「わかりやすく楽しい授業の実践」につなげていきたい。

２　実践の内容

（１）生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実

生徒の個々の様子を丁寧に見取り、必要な指導・支援につなげるため、支援の目を養う研修の実施。

- 法政大学教授の渡辺弥生先生を講師として招聘し「子どもの発達と関わり方～ソーシャルエモーショナル・ラーニングの視点から～」というテーマで研修会を実施した。自尊感情と対人関係能力を育てる事や心地よいと感じる事ができる居場所づくり等の大切さ、生徒の感情表現をカードで選ばせる方法などを学んだ。
- 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課小中学校生徒指導グループの高橋智子指導主事を講師として招聘し、「今、求められる生徒指導のあり方とは」というテーマで研修会を実施した。大人に課せられた責務として、生徒にとって「自分は生まれて、育って、ここにいて、良かった」と自覚できる環境となるよう関わり続けることであり、生徒指導・支援を考える上で大切なポイントは「ゴールをどこにするか」という視点をを持つことだと学んだ。

（２）生徒が学びに向かう、授業を居場所にするための授業づくり

①土台づくり

- 学校教育目標をもとに、各学年の思いや学年目標を入れ込み、土台を作成する。それを、授業や自治委員の動きに反映させるよう計画していく。

②授業づくり

- 「生徒が学びに向かう」ことを意識しながら、生徒も教師も、学び合い、教え合う関係＝「学びの共同体」を大切にする。
- 文部科学省初等中等教育局主任視学官の田村学先生を講師として招聘し「学びの共同体と主体的に学習に取り組む態度の育成」というテーマで研修会を実施した。深い学び＝「知識・

技能をつなぐ」－「活用・発揮」－「探究のプロセス」という確認と思考ツールの活用、振り返りに時間をかけて次の学びにつなぐ事などを学んだ。

・藤沢市教育委員会教育指導課教育文化センター関指導主事を講師として招聘し、「個別最適な学びと協働的な学び」の充実に向けて、グループワークを行いながら、視覚的に認識し、全体で共有した。

・筑波大学附属小学校溝越勇太先生を講師として招聘し、「授業のユニバーサルデザイン」というテーマで研修会を実施し、「特別な支援が必要な子を含めて、通常学級の全員の子が、楽しく学び合い『わかる・できる・探究する』ことを目指す授業デザイン等について学び、トークトレーニングについては、模擬授業形式で取り組んだ。

（３）小・中学校の連携・協力

①研究授業への小学校の職員の参加
②研修（講演会）への小中の職員の相互参加
③小学校への授業参観

３　実践の成果と課題

○10 年以上続けてきた「学びの共同体」や、研究の方法などについて、様々な方からのご助言をいただき、現在の高倉中学校の実態に合ったものへ、移行していく良いきっかけとなった。

○小学校との連携により、地域の児童・生徒の課題を確認し、義務教育９年間を見据えた子どもたちの学びに目を向け、今後も連携を密にしていく事の共通理解を図ることができた。

○年３回の「授業を見合おう週間」では、「他学年の様子が感じられる貴重な時間」という意見がある一方で、業務に追われ、あまり授業を見に行けていない職員もいたので、時間の確保に向けて工夫の必要性を感じた。

○年３回の公開授業とその後の講演・研修という流れが定着している一方で、その持ち方等に対して新しい工夫の必要性も感じた。

○「学びづくり」の取組が実際に生徒の学びの質的向上等につながっているのか検証するためアンケートを実施した。

・授業はわかりやすく楽しい
「66%→86%」（2023→2024 学校評価より）

・先生方は授業を工夫している
「83%→93%」（2023→2024 学校評価より）

・先生は自分の良いところを認めてくれている
「86%→91%」（４月学状→12 月学校評価）

等いずれも、職員の指導・支援や授業の改善・工夫により向上していることがわかる。

４　今後の展開

○小学校との連携を更に図り、お互いの研究授業や研修会には参加できるような体制を維持していきたい。

○10 年以上続けてきた「学びの共同体」であるが、現在の高倉中学校に合った形を模索していく上で、アドバイスをたくさんいただいたので、高倉中の校内研究の方向性を探り、生徒のために学び続ける職員集団でありたい。